

2021 年 4 月 15 日

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

第 20 号

すくらんぶる

最情報報

4. 6

祭典推進会議

理事会

4. 22

理事会

4. 26

劇場代表者会

5. 11

理事会

6・11

第 20 年度通常総会

(公財)県民ボランティア振興基金支援事業

「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座

子どもの活動に関わるおとなや子育て中の親の学びと、子どもの表現する「声」を尊重し日常生活の中で子どもと向き合う大人を増やすことを目的に、県民ボランティア振興基金の助成を受けて3つの事業を継続して県内3ヶ所（諫早市、長崎市、佐世保市）で実施した。

第1弾はワークショップ『あそびの中に権利あり！』。講師に北島尚志さんを迎え、12月14日、15日の2日間で開催した。ジャンケンゲームから始まり、イス取りゲームやペアでの共通点探し、グループで力を合わせて新聞紙で作ったボールを同時に投げつないでいくなど、沢山のあそびの中で参加者は徐々に開放され、心から楽しむことができた。あそびながらだんだんと人と関わりを持つことで安心感や、人の気持ちを知ること、コミュニケーションの大切さを体感することができた。「権利とは



『あたりまえ』の事、そこに存在していていい、安心してここにいていい」という北島さんの言葉が深く胸にしみた人も多かった。

次に1月に実施予定だった第2弾がコロナの感染拡大による自粛のため3月に延期することになり、第3弾のワークショップ『権利を知ると子育てはおもしろい！』を2月14日、20日、24日に、中山理事のファシリテートで行った。参加者が子ども時代の自分を思い出し、様々な言葉を出し合うことで、共感や、自分をふり返る気づきがたくさんあった。日常の中に権利があることや、自分自身がまだ成長途中の人間であることを共有した。「子どもには失敗する権利がある」というヤヌシュ・コルチャックの言葉など、様々な学びが心に響いた。

第2弾の劇づくりワークショップは3月6日、7日に開催した。北島尚志さんと平川恭子さんを講師に迎え、佐世保会場は高学年向けのワークショップ、長崎と諫早では低学年と高学年向けのワークショップをそれぞれ行った。低学年対象ではあそびから入り、物の気持ちになって表現したり、複数人で写真のショットをつくったりした。高学年対象では、ジュスチャーでの伝言ゲームや、言葉をイメージした表現や部屋にあるものを表現するなど、どちらも1人の表現からコミュニケーションをとりながら複数人でする表現で充実した2時間だった。コロナ禍の中、子ども達も日常生活が変わり、窮屈な日々だったこともあり、各会場ともおもいっきり楽しくあそび、表現活動を楽しんだ。また、「大人たちも表現することを楽しむ中で子どもとの関わりや声をひろう大切さを体感することができ、表現の楽しさや伝わる面白さ、分かり合えた嬉しさを感じた」などの声が聞かれた。3月8日に行われた『劇づくりワークまとめの会』では「この場はどんな場だったのか」のキーワードを開催地ごとのグループで出し合い最後に北島さんから話がされた。「今回のワークは、生きあい、関わり合う“いのちのレッスン”」。一人ひとりを大切にすることは存在しているだけでいいということ。即興の大きな魅力は、その場に起きたことにどう関わるかを自由に考え、決定できること。その一人ひとりの表現こそが面白い。あそびの中のゲームの勝ち負けや早い遅い、クイズの正解はどうでもいい。もともと答えはひとつじゃない。本当にしたいことを考えて、やろうと思う気持ちが大切。表現は、自分との対話、他者との対話。安心感とは「自分の思い込めるもの、縛られているものから解放され、思う存分心を揺らせていいんだと思えること。喜んでくれるからやりたくなる。興味、関心、好奇心。想像するとワクワクする。あの人とやりたいと思える人がいる。そんな場をそれぞれが創り上げることができたのではないかな。」



これらの事業を通して、子どもも大人も違いを認めあい、生きあい、関わり合うことの大切さを具体的に体感し、共有できたことは、今後の子どもの活動で活かしていける大きな学びになった。また、子ども劇場の会員だけでなく、一般の教員や保育士、学童指導員、健全育成会や行政からの参加もあり、地域の子どものたちのことを考える人の広がりをつくることができた。

笑い、遊び、語り、踊った！県内高校生・青年交流会

2021年3月14日(日)10:00~18:00 諫早市小野ふれあい広場

参加者:高校生 10人/青年 16人/大人 3人



コロナ禍で、大人も子どもも様々なことをがまんして、静かに過ごしたこの一年。そんな“新型コロナウイルスに負けないで、日々を過ごそう”という思いをこめて、今年のテーマは『運命に抗え！』。皆が集まって実行委員会を開けない中、実行委員どうして便利なアイテムを利用しながら連絡を取り合い、企画をつくりあげてきた。2月28日に開かれた実行委員会では、久しぶりに高校生と青年が一堂に会し、当日に向けての確認作業や、各地域の子ども劇場と高校生の企画の説明や意見交換がおこなわれ、青年企画の語りの場なども追加された。

当日はお天気も良く、諫早子ども劇場担当のオープニングで

始まり、佐世保子ども劇場担当の遊び、高校生企画の遊びと、身体と頭を使って思いっきり遊んだ。それぞれの企画が、チームで話し合いをして作戦を練るなど、コミュニケーションをしっかりとることや、遊びながらもっと楽しめるようにルールを変えていくなど、初めて参加した人たちも自然に混ざっていけるような工夫や配慮がされていた。青年企画の語りでは少人数のグループから、高校生と青年に分かれて、少ない時間だったが熱心に語り合う姿が見られた。そして、1時間半に及ぶ『劇場ダンス』。子ども劇場の青年たちに引き継がれてきたダンスを披露し、皆でそれを覚えることができた。きっと今後も各地域の子ども劇場で、受け継がれていくことだと思う。そして、最後はながさき子ども劇場担当の笑い溢れるエンディング。

笑い合い、遊び合い、語り合い、踊り合う、皆がひとつになった交流会だった。



私にとっての高校2年生は、少し息苦しいものだった。コロナ禍で活動が制限、満足のいく青春を送ることはできなかった。そんな高2の終わりが迫る3月14日、長崎県の子ども劇場3つで交流会が行われた。

コロナ対策をしつつ集まった高校生と青年で交流し、久しぶりに味わう楽しい時間となった。この日の企画は私たち高校生が考え、私は実長を務めた。初めての経験で不安なこともあったが、子ども劇場は温かい場で高校生同士は助け合いながら、青年はやさしいアドバイスをしてくださって、交流会は成功した。このコロナ禍の中、この交流会があっけほどに良かった。また、やはり子ども劇場は多くの経験ができる良い場だと思った。

実行委員長 原口木葉^{このは} (高2)

舞台コーディネイト事業

さんまのおふだ 人形芝居燕屋



コーディネイト事業では、当初2月に「さんまのおふだ」を7公演と「たっちゃん紙芝居ライブ」の2公演を予定していたが、1月の新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止にしたところが多く、「さんまのおふだ」を2月に平戸市で2公演、3月に諫早市で3公演実施した。不安を持ちながらも参加人数を縮小するなどの工夫をして取り組んだところや、初めてプロの劇団の人形劇を取り組んだ園もあった。なかなか不安がぬぐえないこんな時でも、子ども達が笑ったりドキドキしたりして楽しむ様子がやっけと良かったとの主催者の声が聞かれた。こんな時だからこそ、子ども達が思いっきり楽しい時間を過ごすことの大切さを痛感した。

わたしの『観る、観るとき、観れば』

子ども劇場は様々な生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことを目指して活動しています。今回のリレートークは、諫早子ども劇場の倉富早智子さん。子ども劇場では鑑賞例会の事前事後に劇団との交流会を行ったり、楽しく待てるような取り組みをしたりします。当日は搬入や搬出、会場づくりや受付など、子どもも大人も一緒に皆の力で公演をつくりあげるのです。地域の文化や人たちと関わることで育つ子どもたち、そんな体験と共に、「盛り上げるのは自分たち」そんな思いを綴ってくれました。

ねぶた祭りで有名な青森県出身です。私の住んでいたむつ市では、テレビで見るような大型ねぶたより、ずっと規模は小さいのですが、市内の各町内や子ども会が中心となり、夏休み中のねぶた祭りに向けて、中高生から大人がねぶたを製作し、小学生中学生が女子は横笛、男子は太鼓を練習する伝統がありました。

規模は小さくても、作り方は本物のねぶたと同じです。歴史上の勇者や物語を題材に、中心となる人物の顔、腕、胴体～足を針金でパーツごとに骨組みし、中に電球や蛍光灯を設置し、組み立て、和紙を張り付け、溶かした蠟と、墨汁で縁取りし、色を塗っていきます。子どもながらに、一公務員の父が、本業のねぶた師から、ねぶたの顔作りの指導を受け、毎年父が作る顔のねぶたを子どもたちが綱を引き、市内を練り歩くことを誇らしく思いました。また、深夜まで父親と製作に燃える中学生の兄らがちょっと羨ましかった思い出があります。製作する『ねぶた小屋』の横には町内のお墓があり、そんな怖いところで深夜まで活動するのが、すごく大人に見えたのかもしれません。私は横笛を「この子ども会は上手い！」と言われるよう練習に励んだ記憶があります。

こうして、子ども会行事のメインであるねぶた祭りに燃えた私ですので、大人になってから、鑑賞に自主活動、子どもから大人までが集う子ども劇場に出会った時は、小学生の自分に戻ったような気持ちでした。特に、舞台の裏側を知る機会や、事前事後の劇団との交流は、作品を観る以上に興味深く、観るだけでは勿体ないと改めて思います。

子どもたちが乳幼児の頃は鹿児島県鹿屋市で過ごしました。クラルテの『モンモとバンボはいつもいっしょ』を長女の時も長男の時も、同じところで私が泣く…という思い出や、ロバの音楽座の『ポロンポロン』では、昨年諫早で取り組み、鑑賞する乳幼児親子を見て、私も膝の上に二人を抱っこして鑑賞したのを思い出しました。

5年前に大村に転居し、『大村の子どもたちにも生の舞台芸術を！』との思いから、祭典の実行委員会を立ち上げました。実行委員の子どもたちが友達を誘い、会場作りに取り組みました。『カマキリと月』に取り組んだ年、長男と一緒に、お隣の家の子がお約束を言った時は、祭典後もしばらく、お隣の開いた窓からイモムシの歌が聴こえ、作品が本当に楽しかったのだと嬉しく思いました。去年は残念ながらお休みしましたが、会場を作り、盛り上げるのは自分たち、子ども時代のねぶた祭りと重なる思いもあり、安心して鑑賞できる日が来ることを願っています。

劇場や地域の子子どもたちが、たくさんの作品に出会い、楽しい子ども時代を過ごして欲しいと願い、自分ができることを続けたいと思う毎日です。私自身が、親だけでなく、地域の大人に見守られていることを感じ、社会に出てからもたくさんの方に助けられ今があり、振り返った子ども時代に満足しているからなのかもしれません。劇場のある環境で子育てできることに感謝しています。

(倉富早智子／諫早子ども劇場)



子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名		場所	主催
どんどこもんちゃん／カミナリカレー (人形劇団むすび座)	5月15日(土)15:00 開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
たっちゃんの紙芝居+ (プラス) (マーガレット一家)	5月20日(木)19:00 開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	5月23日(日)14:00 開演	芦辺町クオリティライフセンターつばさ	壱岐子ども劇場
らくだ (はぐはぐ☆カンパニー)	5月21日(金)19:00 開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	5月30日(日)18:00 開演	アルカスSASEBO	佐世保子ども劇場
チト みどりのゆびをもつ少年 (人形劇団むすび座)	6月30日(水)未定	諫早文化会館大ホール	諫早文化会館芸術鑑賞会
かくれんぼしてるのだあれ (くわえ・ぱべっとステージ)	7月17日(土)10:30 開演	アルカスSASEBO(予定)	佐世保子ども劇場

**NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

◆ 第 20 年度 通常総会

6月11日(金) 大村コミュニティーセンター
10:30~12:00 議事
12:00~13:00 ディスカッション

19年度は長年一緒に活動を共にしてきたはさみ子ども劇場の閉会や、新型コロナウイルス感染拡大防止を受けて 25 回長崎県子ども舞台芸術祭典の中止など残念なこともありましたが、そんな中でも、「絵本をあそぼう」事業や、「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成事業を行えたことはとても良かったと思います。

そんな 1 年をまとめ、次年度に向かって自分たちの使命、課題、活動を確認し、新しい一歩を踏み出す会にしたいと思います。



**第 26 回
長崎県子ども舞台芸術祭典**

2021 年 7 月 18 日~7 月 28 日

今年も新型コロナウイルス感染拡大で、先の見えない状況の中ではありますが、地域の子供達に舞台芸術作品を届けたい！という思いを受けて実施する方向で準備を進めています。

長崎県内の各地に、20の実行委員会が立ち上がり5作品、22ステージを予定しています。毎年行っていた劇団と出会う作品のことや、地域の思いを交流していた事前交流会はリモートで行います。

★編集後記★

「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座の「権利を知ると子育てはおもしろい！」のファシリテーターを担当したことでのいろいろなことを思い出した。『子どもの権利条約』を知ったのは、1994 年に日本が批准する少し前だった。埼玉県にお住まいだった教育学者の大田堯先生が批准に向けての運動をされていた。埼玉県の子ども劇場も 31 条はまさしく私たちがやっていることだと、自信を持って署名活動を行った。その頃、埼玉県で活動していた私も、ほかの役員の人たちと共に、集めた署名を持って、議員会館に向き、国会議員にお願いして回った。あれから 27 年経った。様々な子どもに関わる事件や出来事もその時だけの対処だったり、ひどいときにはなかったことのようにされたりと一向に『子どもの権利条約』に基づいて考えられていないことが多いように思う。『子どもの権利』自体の認知度がとても低いことも痛感する。『子どもの権利』について学習するにしたがってアリス・ミラーの著書「魂の殺人」や「沈黙の壁を打ち砕く」に出会い、子ども時代の体験が人格形成にいかにか大切かを知った。「厚く高くそびえる沈黙の壁の向こうには、無視され見捨てられた（内なる子ども）がいる。壁を穿ち、踏みじられた子どもの真実を救い出し、子どもの生があるがままに認めること。愛しつきそってやること。その時人間としての本当の生が可能になるだろう。」アリス・ミラーの考え方に沿って、心理療法的アプローチを行っているアメリカの犯罪者の社会復帰支援施設「アミティ」の番組をみたことがあるが、親に支配されたり虐待された子どもが大人になって、自分と向き合い、認めることがいかに厳しく難しいか！子どもは子ども時代を子どもとして生きてほしいと切に思う。(N)

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子供文化芸術振興に寄与することを目的に 2003 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

私たちは子どもの文化を応援します。

立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL 0957-22-0292

医療法人 マツオ内科クリニック

〒854-0072 諫早市永昌町 43-6
TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220

セントラルホテル佐世保

佐世保の中心、ビジネス&観光に。
〒857-0872 佐世保市上京町3番2号
Phone 0956-25-0001
0120-69-0511

ダイハツタチバナ

有限会社 **林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378

ホテル ウイング・ポート長崎

白山陶器株式会社

白山陶器
〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL. 0956-85-3251 FAX. 0956-85-6630